

Redesign of a small shelter

「ちいさな避難所」のリ・デザイン

「リ・デザイン」とは、高度な次元で「完成されたデザイン」（最適解）を、さらに「最適化」することの意である。よって、先行する追求の結果に対して、その踏襲または否定、あるいは不備・不足を補完するだけの営為ではない。

出典：現代美術用語辞典 ver. 2.0 -橋本優子/Artscape

「防災」「減災」「発災時対応」「復旧」「復興」・・・

私たち建築士は、様々なカタチで「災害」に関わっている。

「応急危険度判定」などで行政と協働することが「公助」、 「防災訓練」などのイベントを通じ、建築士の存在を市民に伝え、地域コミュニティの形成に関与することが「共助」とするならば、建築士が関わることができる「自助」とはなにか、について「避難所」をキーワードに考えてみたい。

以下、視座 01 で避難所の現状を概観し、視座 02 で社会に発信するメッセージについて考えてみる。

「視座 01」・・・どうやら、自分の避難所は自分で準備しなければならないようだ。

「視座 02」・・・建築士が自らの職能を広く社会に発信していくためには、強くて美しいメッセージが必要だ。

人が短期間に快適に過ごすことができる自分の「ちいさな避難所」を作るとしたら、どんなモノになるだろうか。そして、そこにどんなメッセージを込められるだろうか。

「ちいさな避難所」は、文字通り災害時に行政の設営する「おおきな避難所」に代わるものであるし、キャンプに持っていけば、休日の過ごし方も変わるかもしれない。あるいは、自宅の敷地に余裕があれば離れのような使い方ができるかもしれない。家の中に置けば、子どもたちの秘密基地や家具として活躍するかもしれない。

「建築士の日」と「防災の日」を契機に、「公助」や「共助」に取り組む建築士会という社会的な活動からやや視点を変え、ひとりの建築士として「防災対策」における「自助」に向き合い、「ちいさな避難所」をリ・デザインしてみてはどうか、と考えるがどうだろうか。

7月1日は「建築士の日」

1950年（昭和25年）7月1日に「建築士法」が施行されたことにちなんで制定された。

9月1日は「防災の日」

1923年（大正12年）9月1日に関東大震災が発生したことにちなんで制定された。

Application Guideline

募集要綱

■ アイデアコンペ募集要綱

添付「視座」を踏まえ、「ちいさな避難所」の提案を求めます。

提案は、おおよそ 2m×2m×2m の大きさで、かつ移動もしくは運搬可能なものとし、人が短期的に快適に居住できるものとしてください。法規、敷地、インフラ等、条件設定はありません。

■ 参加表明

参加希望者は、2021 年 7 月 31 日（土）までに参加表明のご連絡をお願いします（申込ではありません。作品展示のおおよその総数を主催者側で把握するためのアンケートです）。

■ 締切

2021 年 8 月 24 日（火）まで（参加表明していない方からの提案も受け付けます。）

■ 参加資格

どなたでも

■ 提出要領

ひとりでもチームでも可とします。複数提案も可とします。

A3 サイズ片面横使い 1 枚（無記名）に提案をレイアウトし pdf データとして完成させてください。

提出作品は支部会活動として公表する場合があります。また、東京建築士会多摩ブロック南部支部 第 4 回建築士の仕事ってなかに展に展示する予定です。

すべての作品を後述のドラフト制の対象とします。

文章、図、写真等、表現方法は自由です（ただし著作権、肖像権等をクリアしているもの）。

模型を作成する場合は写真としてください（模型そのものの提出は不可）。

作品に対する権利の保護について、主催者は一切関与しません。

当コンペのために収集した個人情報は当コンペの目的以外に使用いたしません。

■ 提出方法

下記、前野（小金井部会幹事）までメールにて pdf データを提出してください。

Mail : maeno@jmm.ne.jp（参加表明もこのアドレスまで）

■ 質疑

課題に対する質疑応答はいたしません。すべて、自身の提案に沿うように判断してください。

■ 審査

東京建築士会多摩ブロック南部支部賞：1 名 賞状、記念品

日都産業賞：1 名 賞状

審査方法：南部支部賞は、南部支部会員によるネット投票（投票フォームは後日通知）とします。

日都産業賞は、日都産業社内審査とします。

審査期間：2021 年 8 月 25 日（水）～9 月 1 日（水）

結果発表：2021 年 9 月 3 日（金）

■ 主催

東京建築士会多摩ブロック南部支部（小金井部会）

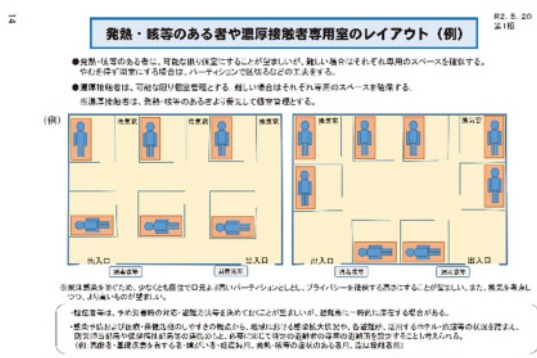
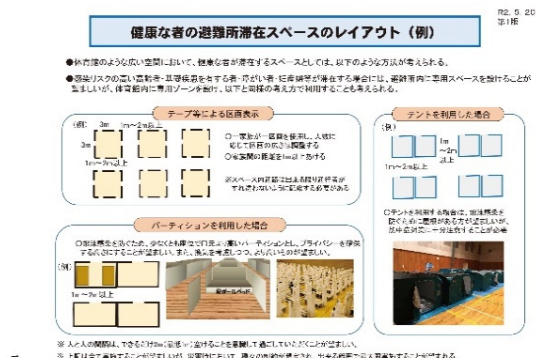
■ ドラフト制

日都産業株式会社よりスカウトマンが登場します。日都産業にとって有益かつおもしろい提案は、商品化の可能性がります。

※得票に関わらず、スカウトマン目線で社会に役立つ可能性がありそうなもの、強くて美しいメッセージを持っているものを選定します。該当なしの場合もあります。ドラフト制は、提案実現の機会提供が目的であり、スカウト後のやり取りに主催者は一切関与しません。

※日都産業株式会社：公園・屋外の遊具・健康器具・休養施設・防災製品の製造・販売メーカー ⇒日都産業公式ウェブサイト：www.nitto-sg.co.jp

視座 01 避難所



出典：「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」（第1版 令和2年6月17日）

日本医師会の「新型コロナウイルス感染症時代の避難所マニュアル」（第1版 令和2年6月17日）によると、感染症の流行下において、従来の「避難所」の中での避難生活では3密を避けられず、感染症の拡大を招く恐れがあることが危惧されることを指摘している。

医師会では、行政によってほぼ確立されている「避難所」及び「避難所運営」という既存の枠組みの中で、様々な工夫を凝らすこと、周到な準備を行うこと、及び細心の注意を怠らないことによって、感染症拡大のリスクを低減する方策を提言している。

「東京都防災ホームページ」によると、都内で避難所3,200か所、福祉避難所1,500か所を確保しており、避難所の収容人数は約320万人であると公表している。

前述の通り、従来の避難所に感染症拡大防止対策を行うとすれば、収容人員は1/3になると試算がある。

とすれば、現在、東京で避難所に入れる人員は約100万人ということにならないか。
ん？東京都の人口は約1,400万人として、1/14=7%にワタシはカウントされているのか。

ここはひとつ、「公助」としての「おおきな避難所」に頼らず、「自助」としての「ちいさな避難所」を準備しておくべきではないか。

SINCE～1994 FINAL HOME project

「もし、災害や戦争、失業などで家をなくしてしまった人々に、ファッションデザイナーである私は、どんな服を提案できるのか、またその服は平和なときにはどんな姿をしているのか」
FINAL HOME は表生地と裏生地の隙間を収納スペースとして活用する事で日常と非日常に対応する都市型サバイバルウェアです。隙間に新聞紙を詰めれば防寒着に、予め非常食や医療キットを入れておけば災害時に対応します。家という安心を着る例えから「究極の家」『FINAL HOME』と名付けました。

津村 耕佑

出典：FINAL HOME ホームページ

この家の設計者はファッションデザイナーである。

わたしたちは、あまりにも軽々と社会によって固定された概念で「家」や「設計者」を理解しようとしてはいないだろうか。あるいは、あまりにも軽々と「日常」と「非日常」を切り分けてはいないだろうか。

このナイロンコートは、家をなくした人々を横糸に、ファッションデザイナーとしての職能を縦糸にして、それらが美しくリ・デザインされている。

そして、そのことはまた、このナイロンコートを手取る人に対し、いつのまにか「固定されてしまった社会に普通に生きている」という行為そのものをリ・デザインしてはどうかという設計者からのメッセージかもしれない。



「ちいさな避難所」に、建築士として強く美しいメッセージを込めることができれば、社会と共振することができるのではないか。